

令和6年8月27日

三田市長 田村 克也 様

三田市行政評価委員会

委員長 赤澤 宏樹

令和6年度行政評価（内部評価）に対する検証について（答申）

令和6年6月13日付三政第12号で諮問のあった標題の件について、三田市行政評価条例第5条第3項の規定に基づき検証した結果、下記のとおり答申します。

記

（1）総括

当委員会が実施した令和6年度の行政評価（外部評価）では、令和4年度にスタートした第5次総合計画の基本計画に定める25の施策のうち、令和5年度の市の取り組み及びデジタル田園都市国家構想交付金（以下「デジ田交付金」という。）を活用する事業の進捗状況について、「A：良好な進捗」、「B：標準的な進捗」、「C：今後の取り組みに期待」の3段階で評価することとしたものである。

評価に当たっては、行政が作成した内部評価調書に加え、必要に応じて書面による質疑やヒアリングを実施した。

これらの調査を基に、委員間の活発な意見交換を経て、4施策が「A：良好な進捗」、19施策及びデジ田交付金を活用する2事業が「B：標準的な進捗」、2施策が「C：今後の取り組みに期待」となった。

全体的に、着実かつ漸進的に取り組まれていることが伺えたが、より効果的な事業の取り組みにつなげるため、適宜事業の改善や見直しを行うなど、柔軟に対応し、市民満足度向上を図るよう一層努められたい。

当委員会での評価における今後の取り組みへの期待や助言をもとに、引き続き効果的・効率的な施策の推進を望む。

(2) ヒアリング対象施策について

取組番号	6	取組名	学校教育の充実		
1 内部評価の概要					
対象経費（人件費除く）				施策関連部署	
R5 予算	1,777,315千円	R6 予算	1,962,484千円	学校教育部	
予算の重点項目に対する市の取組結果（R5年度）					
主な取組項目【予算額】		⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価			
① 小・中大規模改修事業等 ⑥ 学びを支える環境の整備～子どものより良い学びの環境づくり～ 【168,233千円】		三輪小学校大規模改修設計【56,085千円】、小・中学校LED照明器具改修工事【96,148千円】及び個別改修による便器の洋式化【16,000千円】修繕工事を実施 【純増した洋式便器の基数】 ・小学校：33基（個別改修） ・中学校：8基（個別改修）			
② 不登校対策の充実 ④ 「一人ひとりが大切にされる教育・支援の充実」 【4,205千円】		不登校及び別室登校児童生徒の増加に伴い、「小学校子どものこころの支援員」を小学校4校（年間840時間）に配置し、学校生活に不安を抱える児童に寄り添った指導を行ったり、「こころとからだの自立に向けた相談会」を5回開催した中で、延べ5人の児童が参加し、児童の社会的自立に向けた支援を行った。さらに長期間にわたり不登校の状態が続いている中学生を対象にメタバース空間を活用した支援として「あすなるe-school」の研究を大阪教育大学と連携して行い、支援ルームを活用した中学生2名が学校復帰する等、一定の改善傾向が見られた。今後はAIチャットによる支援の研究をすすめていく。			
③ 小学校水泳授業モデル実施 ③ 「健やかな体の育成」 【2,968千円】		水泳授業民間施設利用モデル事業（三輪小） 近隣の民間スポーツ施設において水泳授業を行い、専門指導員から泳法を学んだ。民間施設を活用した専門指導員の指導により、児童の泳力の向上（「泳ぐ力が向上した」87.3%、「水泳が好きになった」95.7%）、教員の負担軽減、施設維持管理費の縮減をはかることができた。 【2,825千円】 小規模校合同水泳指導モデル事業 志手原小の児童を小野小へバス送迎し、合同水泳授業を行い、専門指導員から泳法を学んだ。専門指導員の指導による児童の泳力向上が見られた（「泳ぐ力が向上した」87.2%、「水泳が好きになった」91.9%）ものの、屋外施設を利用のため、計画的な運用に課題が残った。 【143千円】 ＊指導員謝礼は、小学校体力・運動能力アップサポーター派遣事業から支払い			
成果指標の推移				成果を踏まえた重点課題等（R6年度～）	
指標名		基準 R2	R5	目標 R8	現在もっとも重要な1項目+その他の課題
1	学習の中でコンピュータ等のICT機器を使うのは勉強の役に立つと答える子どもの割合	(小6)71.1% (中3)64.2% (R3)	(小6)67.8% (中3)60.2%	(小6)90.0% (中3)85.0%	【重点課題】 不登校対策事業 ④ 「一人ひとりが大切にされる教育・支援の充実」 【詳細説明】 不登校や別室登校の児童生徒等への対応と支援を充実することで、一人ひとりに応じたアプローチを行い、社会的自立につなげることを目的に以下の取組を行う。 ・子どものサポーターを小学校5校、中学校8校に1校あたり年間700時間配置し、教室に入りにくい児童生徒が安心して生活できるよう支援する。 ・三田市あすなる教室に専任のSSWを配置し、長期間登校できていない児童生徒へのアウトリーチ支援を充実させ、関係機関との連携強化を図る。 ・単独で配置できていない、小学校にスクールカウンセラーを配置することで、きめ細かい相談体制を整える。 【その他の課題】 ①小中学校トイレの洋式化の促進 ②小学校の照明設備のLED化 ③小学校大規模改修 ④小中学校エレベーター設置の促進 ⑤児童の体力・運動能力の向上
2	「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時」相談しないと答える子どもの割合	(小6)7% (中3)11% (R3)	(小6)10.6% (中3)11.3%	(小6)0% (中3)0%	
3	「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合	(小6)80.7% (中3)76.5% (R3)	(小6)85.8% (中3)81.7%	(小6)90.0% (中3)85.0%	
4	「将来の夢や目標をもっている」と答える子どもの割合	(小6)80.7% (中3)68.6% (R3)	(小6)79.9% (中3)62.7%	(小6)90.0% (中3)85.0%	
5	校舎の洋式便器1基あたりの児童生徒数	(女子)14.4人 (男子)20.8人 (R3)	(女子)11.1人 (男子)17.1人	(女子)10.0人 (男子)20.0人	

R6 予算対応済内容

【重点課題への対応】

- ①子どものサポーター、子どものこころの支援員の充実（小5校、中8校）【13,650千円】
 - ・校内サポートルームの整備（小10校、中8校）【2,000千円】
 - ・あすなる教室スクールソーシャルワーカーの新規配置【2,362千円】

【その他の課題への対応】

- ①小中学校トイレ洋式化工事（114基）【51,414千円】
- ②小学校照明器具改修工事（3月補正）【80,583千円】
- ③三輪小学校大規模改修工事（3月補正）【484,755千円】
- ③三田小学校大規模改修工事設計【73,983千円】
- ④小中学校エレベーター設置工事設計【13,398千円】
- ⑤小学校体力育成事業費【10,851千円】

2 外部評価での主な意見

- 教師の方々が、さまざまな事業に取り組み、日々努力していることに敬意を表するところである。さらなる学校教育の充実のために、ICT機器を導入するに留まらず、従来教育における職階や教育歴に関わらず、技術や活用方策を横展開できるような構造へと見直しをする必要がある。
- いじめ防止、関係改善のための研修の実施など、一定の取り組みがなされているが、指標は改善されていない。今後の取り組みに期待したい。

取組番号	7	取組名	若者が集うまち			
1 内部評価の概要						
		対象経費（人件費除く）		施策関連部署		
R5 予算	52,008 千円	R6 予算	36,412 千円	総合政策部、危機管理部、都市整備部		
予算の重点項目に対する市の取組結果（R5 年度）						
主な取組項目【予算額】		⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価				
①移住促進事業 ③住宅ストックを中心とした積極的な移住施策の展開（若者の移住推進） 【30,040 千円】		・結婚新生活支援事業（市内で新生活をスタートさせる新婚世帯のスタートアップ費用の支援） R5 年度実績：35 件 補助交付額：9,746 千円 ・住み替え支援事業（市内外の若者・子育て世帯の市内住み替えを支援） R5 年度実績：37 件 補助交付額：4,550 千円 （達成度） 移住定住相談窓口を通じた転入者が R5 年度は 103 世帯 163 人（R4 年度 26 世帯 63 人）				
②若者の定住促進 ②若い世代に魅力ある「若者が集うまち」の形成（若者の定住推進） 【2,278 千円】		・地域活躍人材育成事業（スモカモスプロジェクト）を前年度に引き続き実施。令和 5 年度は 13 名が参加。令和 3 年度の事業開始以来の延べ参加人数は 44 名。延べ 46 の事業者に協力いただいた。 ・「若者のまちづくり会議」を計 4 回開催。ワークショップ等による意見交換を実施。 （達成度） 若者が地域で活動する機運醸成、地域社会（事業者等）との関係が構築されつつある。				
③学生まちづくり関連事業 ①学生がまちをフィールドに自己実現ができる「学びのまち・三田」の整備推進 【520 千円】		地域で学生がまちづくりに取り組む関連事業 ・三田学生サミットの開催 R5 年度実績：発表 5 組・交流会 29 名参加 ・学生まちづくり活動補助金 R5 年度実績：4 件補助 （達成度） 若者の地域活動への支援と、地域社会とつながり持つための発表の場を提供することができた。				
成果指標の推移			成果を踏まえた重点課題等（R6 年度～）			
指標名	基準 R2	R5	目標 R8	現在もっとも重要な 1 項目+その他の課題		
1	未来を担う若者指数（15～19 歳人口の 10 年後残存率）	63.0%	58.2%	70.0%	【重点課題】 移住定住施策の充実 【若い世代に魅力ある「若者が集うまち」の形成】 【住宅ストックを中心とした積極的な移住施策の展開】 ②若い世代に魅力ある「若者が集うまち」の形成（若者の定住推進） 【詳細説明】 若者・子育て世代の定住や、市外からの移住を促進するための支援策により、人口の増加に取り組む。 【その他の課題】 首都圏を中心とした関係人口の創出 若者や子育て世代を中心に活性化する持続可能なまちづくり 結婚を望む市民を結婚までサポートする事業の展開	
2	地域でチャレンジできた学生等若者のプロジェクト数（累計）	2 件	29 件	60 件		
3	移住相談窓口相談件数（累計）	24 件	471 件	500 件		
4	0～4 歳児童数	3,892 人	3,226 人	3,500 人		
R6 予算対応済内容						
【重点課題への対応】 ・移住支援金【4,400 千円】 ・住み替え支援補助事業【8,700 千円】 ・うえるかむ三田補助事業【400 千円】 ・新婚生活支援事業【8,400 千円】 ・企業等と連携した出会い・結婚支援事業【2,660 千円】						
2 外部評価での主な意見						
<ul style="list-style-type: none"> ● 学生まちづくり活動補助金について、社会情勢に応じた額の見直しや複数年での補助など、活用しやすい制度設計を検討することで、より効果的な取り組みとしてもらいたい。 ● 就職を契機として転出したとしても、将来的な帰郷の可能性を高めるため、三田のまちづくりや賑わい創出に関わり達成感を得たり、継続的な人と人とのつながりが生まれる取り組みが望ましい。 ● 大学や関係団体とのシステマティックな連携等により、アンケートの回収率の向上やプロジェクトに関わる学生数の増加を図るべき。 						

取組番号	—	取組名	地域活躍人材育成プログラム「三田スモカモス・プロジェクト」 (デジタル田園都市国家構想交付金)		
1 内部評価の概要					
対象経費（人件費除く）				施策関連部署	
R5 予算	945 千円	R6 予算	2,358 千円	総合政策部	
予算の重点項目に対する市の取組結果（R5 年度）					
主な取組項目【予算額】		⇒左記の達成度評価			
①大学生等を対象とした地域活躍人材育成プログラム（ワークショッププログラム）「スモカモス・プロジェクト」実施		指標では減少となったものもあるが、「スモカモス・プロジェクト」に参加した学生には、人とのつながりや支援・多様な活動体験を高く評価する声が多く、ふるさと意識の醸成につながっている。			
②協力事業者等、プログラム参加者および卒業生のコミュニティ醸成					
③伴走支援コーディネーター育成プログラムの実施					
成果指標の推移					成果を踏まえた重点課題等（R6 年度～）
指標名		基準値（基準年）	R5	目標 R7	【成果】 本事業を通じて、大学生等が事業者等との信頼関係を構築し、三田市内の地域資源に触れ、その魅力を感じることで、「地域に残る」「地域に関わり続ける」という選択肢を提供することができた。参加者のうち、88.89%が今後も本プログラム及びコミュニティに関わりたいと回答しており、卒業生コミュニティの土台形成ができた。本業務によるプログラムを継続実施し参加者人数を拡大していくことで、参加者の成長や三田市への愛着を醸成するとともに、プログラム卒業生が運営側として役割をもつ関係人口となり、コミュニティを形成していくことができた。 【課題】 丁寧なワークショップを通して参加者の意欲醸成やモチベーションアップを図っているが、学業とのスケジュール調整が難しいなどの理由で取組状況に差が生じてきている。参加者及び活動体験受入事業者への伴走支援体制に注力する必要がある。
1	未来を担う若者指数(15～19歳人口の10年後残存率)	0.63%	0.582%	0.67%	
2	地域での学生等若者のチャレンジによるプロジェクト数(累計)	2件	29件	64件	
3	スモカモス・コミュニティ登録者数	70人	53人	180人	
4	若者のチャレンジの伴走支援が可能なコーディネーター認定者数	0人	0人	24人	
R6 予算対応済内容					
【次年度への対策対応】 プログラム期間の短縮や二期制の導入など、学生のライフサイクルに合わせた工程の検討とあわせ、プログラム修了生が次年度からは支援する側として参加するなど伴走コーディネーターの育成に向けた仕組みを構築する。					
2 外部評価での主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> ● 中長期的な視点で取り組み、卒業後も継続して三田で活躍してくれる若者がいることは大きな成果であるが、具体的なニーズをくみ取り、より直截的な目的を設定した方がよいのではないかと。 ● 年齢等によるライフステージごとにアプローチを変え、接地点を意識することでより効果的なプロジェクトとなるのではないかと。 ● 就職先や転職先として、市内企業に目が向くような取り組みとして、市内企業の情報などを SNS 等のツールの効果的な活用により発信するべき。 ● 事業結果や成功体験を積極的に発信し、地域や事業者との連携を図りながら、市内定住促進に繋がる取り組みとなることを期待する。 					

取組番号	17	取組名	観光・交流・文化の振興		
1 内部評価の概要					
対象経費（人件費除く）				施策関連部署	
R5 予算	731,431 千円	R6 予算	854,102 千円	産業振興部、総合政策部、市民生活部、学校教育部	
予算の重点項目に対する市の取組結果（R5 年度）					
主な取組項目【予算額】		⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価			
①さんだまち博の実施 ②魅力あるコンテンツづくり～おもちゃ箱の中はワクワク・ドキドキがいっぱい～ 【2,029 千円】		着地型観光の推進に向け、実施プログラムの拡充を図り、新たな観光資源等を市内外へ広く情報発信を行った。 ・実施プログラム数 R4 実績 33 プログラム→R5 実績 40 プログラム （達成度） 事業者研修を通じて、プログラムの魅力向上と事業者間の交流ネットワークづくりが図れた。			
②ふるさと納税制度を活用した魅力発信 ③情報発信と魅力向上～欲しい人に、わかりやすく届けます～ 【126,000 千円】		ポータルサイトの拡充及び返礼品の新規開拓等を行った。 ・ポータルサイト数 R4 実績 4 サイト→R5 実績 9 サイト ・返礼品数 R4 実績 250 品→R5 実績 258 品 （達成度） 訴求力のある返礼品の開拓までには至らず、寄附額増につなげることができなかった。			
③総合文化センターの持続可能な運営管理と文化活動支援の実施 ⑥総合文化センターの適切な運営と文化活動の支援～文化芸術で人生が変わる！～ 【224,850 千円】		開館 17 年を迎えた総合文化センターの持続可能な運営方策について、改修 PFI 事業導入に向けたサウンディング調査や要求水準書案の策定まで進めた。また市民への文化振興事業の展開を進めた。 ・施設の利用件数：5,350 件、イベント件数：242 件 （達成度） 改修 PFI 事業導入に向け事業を進めていたが、社会経済状況の変化により、事業着手時期や事業経費の精査が必要と判断し、事業スキームの見直しを行うこととした。コロナも落ち着き、順調に事業件数を伸ばした。			
成果指標の推移				成果を踏まえた重点課題等（R6 年度～）	
指標名	基準 R2	R5	目標 R8	現在もっとも重要な 1 項目+その他の課題	
1 観光入込客数	3,569 千人 (R 元)	3,234 千人 (R4)	3,900 千人	【重点課題】 さんだまち博等を通じた三田市観光ビジョンの推進 ②魅力あるコンテンツづくり～おもちゃ箱の中はワクワク・ドキドキがいっぱい～ 【詳細説明】 着地型観光の更なる推進を図るため、さんだまち博における周遊型のプログラムの創出や千丈寺湖等の地域資源の活用により、観光コンテンツの更なる磨き上げと魅力向上を図る。	
2 観光消費額	24,594 百万円 (R 元)	22,419 百万円 (R4)	26,100 百万円		
3 文化財施設のプログラム参加者数	4,717 人 (R 元)	3,479 人	5,000 人		
4 三田市公式インスタグラムフォロワー数	2,248 件	3,496 件	5,500 件		
5 ふるさと納税寄附件数	5,265 件	5,651 件	8,000 件		
6 総合文化センターでのイベント件数	203 件 (R 元)	242 件	250 件		
R6 予算対応済内容					
【重点課題への対応】 広域観光連携事業費【2,753 千円】					
2 外部評価での主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> ● 自然や文化、歴史などの資源を活用した観光は、地域の賑わい創出に繋がることから、市内外に向け、積極的・効果的な発信が行われるよう努められたい。 ● 様々な事業に取り組んでいることは理解するが、前年度の取り組みから見えた課題や成果、改善点を視覚化できるよう、市民に対し発信することが必要である。 ● 対面型体験プログラムの良さと、ICT 機器を導入した体験型プログラムが持つ特性を活かし、コンテンツを組み合わせるなど、より効果的なプログラムとなるよう期待する。 					

取組番号	—	取組名	三田市千丈寺湖畔再生プロジェクト推進事業 (デジタル田園都市国家構想交付金)		
1 内部評価の概要					
対象経費（人件費除く）				施策関連部署	
R5 予算	10,670 千円	R6 予算	1,420 千円	産業振興部	
予算の重点項目に対する市の取組結果（R5 年度）					
主な取組項目【予算額】		⇒左記の達成度評価			
①関係・交流人口の増加⇒「里・水・風」の恵みを活かしたアウトドアライフを通じた三田ファンの増加		観光入込客数及び移住相談窓口件数については、順調に増加している。市民の農村地域の居住意向については、大きな変動はなかった。			
②文化・芸術・教育の振興⇒大阪・関西万博の開催を見据えた国内外の観光客の集客につながるコンテンツの整備					
③「里・水・風」の恵みの利活用と保全の両立、地域活性化の促進⇒湖畔周辺の取り組みが周辺地域の持続可能性につながっていく SDGs の実践の場の創出					
成果指標の推移					成果を踏まえた重点課題等（R6 年度～）
指標名	基準値（基準年）	R5	目標 R7		【成果】 サウンディング調査の実施により、湖畔におけるアウトドア活動への事業者の関心が高いことが分かった。一方、湖畔の利活用にあたっては河川法をはじめとした湖畔の規制への対応として、関係機関との協議、調整を要することも判明した。 また、自然の中でのワークショップを通じた体験イベントの実施により、湖畔の利活用の機運醸成へとつなげていく契機とすることができた。 【課題】 民間事業者によるアウトドア施設の設置については、河川法や都市公園条例などの法令上の課題や財政面等の負担も含めて、プロジェクト内容を整理する必要がある。また、関係機関との協議、調整とあわせて、体験型プログラムなど、にぎわいづくりに向けて、魅力的なソフト事業の展開についても引き続き検討を進める必要がある。
1	観光入込客数	2,988 千人 (R3)	3,234 千人 (R4)	3,213 千人 (R6)	
2	移住相談窓口件数(累計)	72 件 (R3)	447 件	671 件	
3	市民の居住意向として農村地域において市内に住み続けたいと答えるものの割合	67.7% (R4)	67.1%	68.8%	
R6 予算対応済内容					
【次年度への対策対応】 市場調査の結果を踏まえつつ、関係機関との協議、調整等を進めながら、プロジェクト内容を整理していくとともに、民間活力の導入を図り、実施可能な体験型プログラムから順次開催していく。また、大阪・関西万博を契機とした千丈寺湖畔の魅力づくりを進めるため、県と一体となった魅力発信を展開する観点から千丈寺湖畔を活用したシティーセールス動画を作成し、湖畔の魅力を積極的に発信する。					
2 外部評価での主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> ● 関係・交流人口の拡大に向けた施策の推進については、地域住民との対話を基に、周辺環境や安全・安心への配慮のもと、適切に事業を実施されることを期待する。 ● 市民が内需観光を楽しめる「魅力」の掘り起こしや、既存コンテンツの磨き上げ、また人を繋ぎ合わせる支援を市が行い、地域や事業者と連携することで地域の良さの維持と、地域経済の活性化との調和がとれた取り組みとなることを期待する。 					

取組番号	18	取組名	まちの再生		
1 内部評価の概要					
対象経費（人件費除く）				施策関連部署	
R5 予算	1,890,242 千円	R6 予算	980,184 千円	都市整備部	
予算の重点項目に対する市の取組結果（R5 年度）					
主な取組項目【予算額】		⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価			
① 三田駅前Cブロック地区市街地再開発事業の推進 ①三田駅前周辺エリアに人が集い賑わいにあふれる空間の創出 【1,654,438 千円】		三田駅前Cブロック地区市街地再開発組合において、関係権利者との合意形成を図りながら、権利変換計画の認可に至り、土地等の明け渡しに伴う補償手続きを進め、建物解体除却工事等に着手した。 （達成度） 事業進捗に応じて、補助金交付等の支援を実施。			
② 広野駅西側まちづくり支援業務 ②JR 駅周辺の魅力とクオリティを高める土地利用の推進 【26,475 千円】		相野地区、広野地区においてまちづくり計画に対する支援を行った。 （達成度） 広野地区において、土地区画整理事業の前提となる地区計画（案）を作成したほか、地元説明会を開催するなど、準備組合が R6 年 3 月末に予定する地区計画申し出の条件を整えた。			
③ ニュータウン再生の推進 ③多世代がつながり未来へ歩む持続可能なニュータウンの再生 【6,560 千円】		フラワータウンにおいては、再生ビジョンに基づく取り組みを昨年度に引き続き実施した。 ・地域の関係者主体のイベントとしてフラワータウンフェスタ 2023 を開催 ・道路空間利活用の社会実験（キッチンカー誘致、歩行者天国化等）を実施した。 ・新たなまちづくりプレーヤーの発掘・育成に向けたワークショップ等を開催した。つつじが丘においては、今後のまちづくりに向けた勉強会・意見交換会を開催した。 （達成度） 再生に向けた関係者の情報や意識の共有・機運の醸成が図られた。			
成果指標の推移				成果を踏まえた重点課題等（R6 年度～）	
指標名	基準 R2	R5	目標 R8	現在もっとも重要な1項目+その他の課題	
1 市街地再開発事業の区域面積	3.1ha	3.1ha	5.0ha	【重点課題】 三田駅前Cブロック地区市街地再開発事業の推進 ①三田駅前周辺エリアに人が集い賑わいにあふれる空間の創出	
2 まちづくり組織、事業者等による都市計画提案等の件数	4件	8件	9件	【詳細説明】 各種調査や補償、既存建築物等の解体工事、ペDESTリアンデッキの拡張工事、再開発ビルの建築工事など再開発事業を推進するために必要となる支援を事業主体であるCブロック地区市街地再開発組合に対し行っていく。	
3 町家等修景助成件数	4件	5件	7件	【その他の課題】 フラワータウン及びつつじが丘地区における持続可能なまちの再生モデル構築	
R6 予算対応済内容					
三田駅前Cブロック地区 【822,695 千円】					
2 外部評価での主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> ● 農村部の活力の維持を目的とした提案制度の開始による地域と連携した取り組みを進めている点については評価できるが、市がより積極的に関わりながら地域活性化に向けて取り組むことを期待する。 ● 三田の魅力である「都市部」と自然豊かな「農村部」が発展するためには、都市部と農村部で楽しめるような取り組みが大事であり、魅力向上に向け、都市部と農村部が連携・共存し、その関係性を強固にすることが必要である。 ● 若者定住に向け、働く場所の確保や働く価値を生み出す環境が必要である。また、教育・医療の充実は必須であり、住環境の整備と併せて「自己実現ができる」、「子育てがしやすい」まちの実現に向け効果的に発信が行われることを期待する。 					

取組番号	20	取組名	交通ネットワーク		
1 内部評価の概要					
		対象経費（人件費除く）		施策関連部署	
R5 予算	989,931 千円	R6 予算	1,224,747 千円	都市整備部	
予算の重点項目に対する市の取組結果（R5 年度）					
主な取組項目【予算額】		⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価			
①新モビリティ実証実験推進補助事業 次世代につながる新たな移動サービスの実現 【40,000 千円】		フラワータウン（武庫が丘）において、センター地区までのアクセス手段として新モビリティ（グリーンスローモビリティ）を活用した移動サービスの実証実験を実施した。 （達成度） 国支援事業を活用することによって、安全運行にかかる検証を追加することができた。			
②地域外出支援おでかけサポート事業 日常の暮らしに寄り添うコミュニティ交通の充実 【6,730 千円】		<ul style="list-style-type: none"> 交通空白地における移動手段を確保するため、地域外出支援おでかけサポート事業を継続して実施している。 令和3年度から広野地区及び小野地区で既存バス路線の下支えを目的に地域内交通を導入し、引き続き実施している。 バス路線が廃止された岩倉地区において、令和4年度から地域内交通導入の検討を開始し、令和5年度に試験運行を実施した。 志手原小学校区において、地域内交通の導入に係る検討を開始した。令和5年度は住民アンケートの実施により、地域状況の把握に努めた。 （達成度） 新たな地域内交通導入箇所数は増加していないが、地域内交通の導入に向け地域との協議を進めることができた。			
③地域外出支援おでかけサポート事業 日常の暮らしに寄り添うコミュニティ交通の充実 【264,915 千円】		三田市橋梁長寿命化計画・舗装修繕計画に基づき計画的に修繕等を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 橋梁修繕 計画3橋 → 実績0橋 舗装修繕 計画480m → 実績638m （達成度） 計画的に修繕することにより、道路ネットワーク機能を確保することができた。			
成果指標の推移			成果を踏まえた重点課題等（R6 年度～）		
指標名	基準 R2	R5	目標 R8	現在もっとも重要な1項目+その他の課題	
1 公共交通利用者数（路線バス・日あたり平均）	11,048 人/日	14,398 人/日 (R4)	16,294 人/日	【重点課題】 地域内交通の導入促進 ②日常の暮らしに寄り添うコミュニティ交通の充実 【詳細説明】 交通不便地域等において、地域の実情に応じた持続可能な新たな地域内交通の導入を推進するため、自家用有償旅客運送などの手法活用と地域住民が主体となった推進体制への支援等による加速化が必要。 【その他の課題】 ・老朽化する道路・橋梁の計画的な対応 ・次世代モビリティサービスの推進	
2 新たな地域内交通導入箇所数	2 箇所 (R3)	2 箇所	5 箇所		
R6 予算対応済内容					
<ul style="list-style-type: none"> 地域外出支援おでかけサポート事業【9,739 千円】 新モビリティ実証実験推進補助事業【2,634 千円】 					
2 外部評価での主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> 実証実験を重ね、現状や課題、ニーズを把握しながら、地域や世代による課題解決に向け利用者を拡大するなど、地域と連携しながら取り組んでいる点について評価できる。 人口減少社会において、立地適正化とあわせて「交通ネットワークの充実」は非常に重要である。三田は地理的条件が厳しく、また、地域や世代によってその課題も異なることから、バリエーションを増やすことなどに、これまで以上にスピード感をもって取り組んでもらいたい。 					

(3) 25 施策及びデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業の評価について

A：良好な進捗 B：標準的な進捗 C：今後の取り組みに期待

取組番号	取組名（施策名）	評価	取組番号	取組名（施策名）	評価
1	人権・共生のまちづくり	A	14	心つながる暮らしの安心	B
2	地域で支えるまちづくり	B	15	商工業の振興	B
3	健康づくり	B	16	農業の振興	B
4	乳幼児期の育ち	B	17	観光・交流・文化の振興	B
5	地域ぐるみの子育て	A	—	三田市千丈寺湖畔再生プロジェクト推進事業(デジタル田園都市国家構想交付金)	B
6	学校教育の充実	C	18	まちの再生	B
7	若者が集うまち	C	19	良好な住まい	B
—	地域活躍人材育成プログラム「三田スモカモス・プロジェクト」(デジタル田園都市国家構想交付金)	B	20	交通ネットワーク	B
8	いつまでも学び、活躍できるまちづくり	B	21	水の保全	B
9	地域医療の安心	B	22	里山・自然の保全	B
10	生活の安全安心・非常時への備え	B	23	持続可能な環境づくり	B
11	子ども・子育ての安心	A	24	協働・共創のまちづくり	B
12	高齢者の安心	B	25	行政経営	A
13	障害のある人の安心	B			

(4) ヒアリング対象外施策への主な意見

➤ 8 いつまでも学び、活躍できるまちづくり

図書館や博物館等が指定管理者による運営に移行されたことで、「知の拠点」としての機能が弱まっている。図書館や博物館等は、「資料館」としての役割も担っていることから、「知の拠点」として適切に役割を果たすよう努力されたい。

➤ 9 地域医療の安心

安心して生活するためには、地域医療は重要視される項目である。地域医療を充実させるという視点から三田への定住につなげる方策について検討いただきたい。